

【教育サポート報告】

—札幌山の手高等学校 地理の教育サポート—

赤松 周平

概要

1. 対 象：札幌山の手高等学校 3年生 2クラス
2. 開催日時：平成 18 年 11 月 15 日，22 日（2 時限目，3 時限目）
3. 内 容：「身近な地理のお話し」地理 B の授業サポート
地形判読の実習とプロジェクターによる説明
4. 担 当：赤松周平 サポート：対馬一男

サポートに至る経緯

柔道家、対馬座長が修行の場を選んで山の手高校で、柔道部の顧問でもある社会科の伊藤誠一先生から、対馬座長に対して地形に関する話を授業でしてもらいたいとの要望があった。

一応、専門分野であるとの認識から、赤松がキャリアを積みたいとの思いから手を挙げて、サポートの運びとなった。

授業のねらいと準備

10 月 11 日、対馬座長に伴われて山の手高校に赴き、伊藤先生を始め、校長先生、教頭先生と対面した。

先生の要望を聞き、山の手高校の身近にある地形の「扇状地」をメインテーマとして話を構成することに決めた。

周辺の新旧の地形図やボーリング柱状図を集め、扇状地地形を書き入れるなど準備をした。授業間近の 11 月 11 日には、学校の周辺を踏査し、扇状地と崖錐斜面の境界が近くの公園にありそうなのが判明し、これを話題にしようと思いついた。

当日の状況と感想

授業は、2 回に分けて 1 日に 2 クラス（2 時限目と 3 時限目）を担当した。

高校生がどの程度の知識を持っているものか判断が難しかった。扇状地の概要を説明して、各自に地形図の等高線から扇状地地形を判読して書いてもらった。課題が少し難しすぎたのか、なかなか手が動かない生徒がいた一方で、小さな扇状地地形まで判読する生徒もあり、驚かされた。

また、2 クラスで雰囲気も大きく違うことがわかった（元気なクラス、ややおとなしいクラス・・・）。元気な女生徒が、話に良く反応してくれたのが嬉しかった。

高校生は、「地形」に関する知識や認識に個人差が大きく、誰を相手に話をするのかの判断が難しかった。個人的には、「手ごたえ」がある生徒をターゲットに、思いを伝えたいの

であるが、学校教育の一環であるからには、全員に対する効果が期待されるはずである。その辺のバランスが今後の課題である。先生の日頃のご苦勞を幾らかでも実感した？教育サポートであった。



女子高生相手に悪戦苦闘？



現地踏査で判明した？扇状地の境界（学校近くの公園）